

赤枝医院 無痛分娩看護マニュアル

(目的)

硬膜外麻酔によって分娩時の産痛を和らげ、穏やかに分娩の進行を図る

(必要物品の準備)

硬膜外コンプリートセット、0.1%キシロカインポリアンブ1本、生食 20ml、バスタオル、消毒液、ユティール、フィジオ500ml、20Gサーフロー針、0.2%アナペイン 10ml、フェンタニル 0.1mg/2ml、2.5mlシリンジ1本、救急カート

(入院時の対応)

- 1、無痛分娩同意書を確認する。
- 2、分娩着と産褥ショーツに着替え、トイレを済ませる。(ショーツ以外の下着は着けない。)
- 3、胎児モニタリングにて異常がないことことを確認する。
- 4、バイタルサインを測定
- 5、内診にて分娩進行状況の確認をする(助産師による)

(看護手順)

- 1、分娩室(OP室)に入室し、CTG装着
 - 2、20Gサーフロー針にて血管確保し、フィジオ500mlを開始する
 - 3、産婦を左側位にし、背部を露出させ、腰部にバスタオルを敷く
 - 4、産婦に自動血圧計を装着し、分娩台の高さを調節する。カップに消毒液と生理食塩水を入れる
 - 5、1%キシロカインポリアンブを切り、医師がシリンジに吸う介助を行う
 - 6、産婦の体位保持の介助を行う
 - 7、硬膜外カテーテル留置、テストドーズ終了後、血圧測定→医師に挿入部位を確認する
 - 8、カテーテルをテガダームにて固定する介助を行う
 - 9、産婦の背部にユティールを貼り、カテーテルを固定する。カテーテルの先端は、産婦の前胸部にユティールで固定する
 - 10、産婦の分娩着を整え、陣痛室へ移動する。CTGおよび自動血圧計を装着する
 - 11、初回麻酔薬注入後、自動血圧計を5分毎に設定し観察を行う。血圧計の測定間隔は注入より20分間は5分毎、それ以降は30分毎とする(カフを外す)
- ※気分不快時は随時血圧測定を行う
- ※血圧低下時は、点滴ドリップアップ→改善ない場合はDr call
- 12、CTG装着、血圧測定、気分不快の有無などの観察と効果(効き目)を確認する

(分娩後の対応)

- 1、硬膜外麻酔カテーテル抜去後、先端が切れていないことを確認、カテーテル刺入部の観察
- 2、帰室時は車椅子にて移動する
- 3、初回歩行は2時間後から開始とする

- 4、フェンタニルの空アンプルは麻薬処方箋と共に管理する
- 5、麻酔により下肢の動きが鈍くなっていることがあるため事故防止に努める

2025年3月31日 改定 赤枝医院